

VOL. 130

ミャンマー、ジンバブエ、ネパール：
教育支援

アフガニスタン：
バーミヤン県における
教育環境改善事業
世界のADRAから

世界がわかる。ADRAがわかる。

ADRA

EST.1985

News

2021
12



子どもたちの未来をひらく
教育支援

ジンバブエでの授業風景

ADRA Japan 事業マップ

ADRA Japanは、約120の国と地域に支部を持つ世界最大規模の国際NGOであるADRAの日本支部です。人種・宗教・政治の区別なく支援活動を行うことをモットーに、海外および日本国内の各地にて様々な活動を行っています。



ZIMBABWE ジンバブエ

教育環境改善支援事業

→ p.5

収入向上活動の改善を目的としたマーケット調査を実施しました。各学校の代表者3名が、ゴクウェセンターの市場等で、生産者・仲介者・販売者にインタビューを実施し、今後の活動の方向性についての検討を行いました。



インタビューを通してのマーケット調査



AFGHANISTAN アフガニスタン

バーミヤン県における教育環境改善事業

→ p.6

NEPAL ネパール

新型コロナウイルス感染症対策事業

新型コロナウイルス感染再拡大や医療崩壊を防ぐため、必要な医療資機材等の支援を続けています。また、コミュニティの人々の健康を守る女性地域ヘルスボランティアへ、啓発教材や衛生用品を配付しました。

新生児・小児の保健環境改善支援事業

教育支援〈ナマステ基金〉事業 → p.5



保健所へ提供する医療資機材について説明するADRAスタッフ



新型コロナウイルス感染症対策啓発キットを受け取った女性地域ヘルスボランティア

ADRA Japan

JAPAN 日本



令和3年8月豪雨

8月11日から降り続いた雨により、1,500世帯以上の浸水被害を受けた佐賀県武雄市で活動中です。武雄市は一昨年にも1,000世帯以上の浸水被害を受け、短期間で2度被災された住民の方の負担は計り知れません。



浸水被害をうけた佐賀県武雄市

ADRA International (世界本部)



ETHIOPIA エチオピア

ガンベラ州のクレ難民キャンプにおける衛生事業

南スーダン難民支援として水衛生事業を実施しています。8月からは衛生啓発に加えて、人材育成支援および小学校への支援、また難民組織の強化に重点を置いた活動を進めています。



難民キャンプでの手洗いキャンペーン

VIETNAM ベトナム

異文化の中で働く難しさを緩和し、家族を支える働き世代をサポートする労使関係改善のための文化的教育事業

出稼ぎ労働者が主な収入源になっているベトナム。日本でも数十万人が働く中、多くの労使問題等が発生しています。そこで、ADRAは出稼ぎ先の国の文化や法律、労働規則などを事前に学べるプログラムをスタート。寄り添った支援を行います。



MYANMAR ミャンマー

教育支援事業 → p.4



ご紹介している事業は皆さまからのご寄付のほか、以下の機関・団体から助成や支援を受けて実施しています(以下敬称略)。
●日本NGO連携無償資金協力(ジンバブエ、ネパール、アフガニスタン、ミャンマー)
●特定非営利活動法人ジャパン・プラットフォーム(エチオピア、ネパール)
●公益財団法人イオンワンパーセントクラブ(ミャンマー)

● ADRA Japan 実施事業
■ 世界のADRA支部がある国と地域

ADRA JAPANの活動

Education 教育

子どもたちの将来が守られ、夢を実現する教育支援

世界には、さまざまな理由で学校に行けない子どもが、約1億2,100万人います。そのうち、初等教育を受けられない子どもは約5,900万人です。学校に通えない理由は地域によって異なりますが、主な原因として「保護者の教育に対する関心がない、もしくは低い」「保護者が学費を支払えない」「女子の早期結婚」などがあります。しかし、子どもにとっては教育を受ける機会がないと将来の職業の選択肢は少なくなり、未来を夢見ることが難しくなってしまいます。ADRA Japanはこのような子どもたちのために、その地域に合わせた教育支援を実施しています。



学資支援を受けている子どもたち(ネパール)

MYANMAR ミャンマー

2016年よりイオン1%クラブ様との協働で、ミャンマーにおける教育支援事業を開始しました。同国では今年2月より不安定な情勢が続いていますが、7月にはカレン州で5校の校舎建設が終了し、住民への啓発活動に

おいても一定の成果を得ることができました。

校舎建設と並行して行われた教育啓発活動では、教育の重要性を住民に理解してもらうことを目的とし、住民の結束力と主体性を活かせるように取り組んできました。ワークショップを実施し、住民が村の教育課題について議論し、対策案を作成するとともに必要な資金を自分たちのコミュニティの中で集めました。その結果、学校の水タンクの設置や通学路の舗装、学校の周りを囲むフェンスの設置など、子どもたちの教育環境を住民自らの手で整備する活動ができました。

小学校の保護者からは「以前は教育の重要性について知らなかったが、今は子どもたちの将来のためには教育が欠かせないものであることを理解した。子どもが学校を卒業するまで通わせたい。私も新校舎の維持管理に携わっていく」という、教育に対する前向きな声も聞かれました。

しかし、現在コロナ禍と不安定な情勢が長期化しているため、子どもたちが安心して学校に行ける状況がありません。ミャンマーの子どもたちが安心して学校に通い、これまでで最高の環境で学ぶことができる日が一日も早く来ることを願っています。



新校舎で学べるのを楽しみにしている子どもたち



ZIMBABWE ジンバブエ

ゴクウェ・ノース地区では2013年より校舎建設を中心とした教育支援を実施しています。また、保護者に教育の重要性を伝え、家の仕事の合間、少しの時間でも子どもたちが学校に通えるように啓発活動を行っています。その結果、約60人の子どもたちが平日午後2時間、特別開設クラスで授業を受けに来ています。

シリンドイルさんもこのクラスに参加している15歳の女の子です。読み書きの経験がない彼女にとって、人生で初めて通う学校は楽しいものではありませんでした。

教師たちは字を書くことも、本をきちんと持つこともできなかった彼女を丁寧に教えました。すると、シリンドイルさんは徐々に字を書くことができるようになり、「もっと宿題を出して!」と言うまでに学ぶことを楽しむようになりました。クラス活動にも活発に参加し、自分の意見を言えるようにもなりました。学期の終わり、シリンドイルさんはクラスで一番の成績を取って模範生に選ばれました。現在は学力が上のクラスに進級し、希望に胸を膨らませながら勉強に励んでいます。

NEPAL ネパール

ネパールでは2000年より学校に通い続けられない子どもたちを対象に、家庭でそろえなければいけない学用品や制服等を支援する学資支援事業を行っています。子どもたちに教育を受けさせる大切さを保護者に伝えるとともに、学校で学べる子どもを増やし貧困の悪循環を断ち切るサポートをしています。

学び始めると子どもたちは、先生になりたい、パイロットになりたい、看護師になりたい、などの夢を持つようになります。学校で

は、輝いた目で一生懸命に先生の話聞き、ノートをとります。家に帰ると、水汲み、弟や妹の世話、食事の用意など、手伝いに多忙な毎日ですが、かまどの火を調節しながら宿題をするなど、時間を見つけては学習に取り組んでいます。

数年にわたって支援を受けた一人の女の子は、優秀な成績を収めて高校卒業資格を得たのち、専門のコースを受講して医療従事者になる夢を叶えました。今では村で唯一の保健医療スタッフとして、村人の健康を支えています。

子どもたちにとって教育を受けることは未来の力になります。彼らの将来への道が開かれ、夢を実現できるよう、ADRA Japanは引き続き教育支援を実施していきます。皆さまの応援、そしてご支援をどうぞよろしくお願いいたします。

クレジットカードによるお支払いで教育支援事業にご支援いただける方はこちら



ご支援をお待ちしています

ADRA Japanを支えてくださる方をご紹介します!

アドラのチカラ



東出克己さん
三育学院大学 学長、
三育学院カレッジ 校長

—ADRA Japanをお知りになったきっかけは何ですか?

青少年の育成活動を通してその働きを知りました。

—ADRA Japanとの関わりについて教えてください。

三育学院大学の国際看護実習IIにご協力いただいています。

—ADRA Japanの魅力について、ADRAと関わっていて良かったと思う時があれば、教えてください。

2015年に、ADRAのご協力をいただき、看護学部の国際看護実習IIという科目でネパールに学生を送る予定をしていたところネパールで大きな地震がありました。実施は困難であろうと考えていたときに、「ネパールの状況はアドラの現地スタッフがよく知っており、安全も確保出来る。またこのようなときであるからこそ医療者としての学びができるのではないか」という提案を受けました。世界の状況を的確に把握し、援助活動をしているADRAのすばらしさを実感し、学生を派遣する決断をしました。ADRAと関わっていたからこそ学生たちが、すばらしい経験することができました。

—まだADRAのことをご存じない方へのメッセージをお願いします。

ADRAは、災害や困難が多発する世界の必要にタイムリーにえています。そればかりでなく、青少年の教育活動に大変積極的に取り組み、日本のそして世界の未来を担う人物を育成しています。是非ADRAを応援してください。

—ADRA Japanへのメッセージをお願いします。

困難な状況であればあるほど、人々の必要は大きく、そのために知識と勇気と祈りにより的確な働きをしていらっしゃる皆様を心から応援しています。また皆様の安全と活躍をお祈りしております。

AFGHANISTAN アフガニスタン



困難のアフガニスタン。 今できることを。

アフガニスタンはかねてより、ソ連の侵略や内戦などにより、常に多大な人道支援ニーズを抱えてきました。人間開発指数は189か国中168位であり、依然として世界最貧国の一つです(UNDP, 2018)。教育面では、多くの学校の教育インフラが破壊され、前タリバン政権下では女子教育は原則禁止されていました。

ADRAは、1988年に最初のアフガニスタンでの支援として難民救援を行い、2002年より教育支援に取り組んできました。2010年以降は、紛争で破壊された学校を再建し、また教師向けの教授法など様々な研修を実施することにより、特に、それまで機会がなかった女子が教育を受けられるような環境整備を進めてきました。

私たちがこれまでに建てた学校は、首都カブールと、首都から約240km離れたバーミヤン県に19校あり、そのうち11校は小学生から



小学校は男女共学が許されている

高校生まで学べる女子校です。女子は年齢が高くなると、校舎や壁のない野外教室で男子と一緒に勉強することが難しくなる文化的背景があるため、学校を頑丈な外周壁で囲み、きれいな水を飲んだり手を洗ったりできる給水設備やトイレを設置し、女子生徒たちが安心して学校で学べるようにしてきました。

校舎建設と教師への研修の実施によって、学校に通う生徒数は20~30%増加し、中には生徒の数が2倍以上になった学校もありました。

こうした支援をバーミヤン県のほかの地域にも広めようとしていた2021年8月、アフガニスタンの情勢は急激に変化しました。ADRAの活動も、スタッフの安全確保のために一時中断し、不安の中で治安状況を確認する日々が続きました。9月からは少しずつ活動が再開できるようになり、今年3月より取り組んできたバーミヤン県の2校の建設現場も動き始めました。現在のタリバン暫定政権のもとで

は、女子が学校へ戻ることに規制がかかっているものの、幸い完全に否定されている状況ではありません。先行きが見えない状況に身を置きながらも、子どもたちの未来のため、国の未来のためにとの思いをもって活動を進めてくれる現地スタッフが、現場を動かしています。

現地スタッフのアクベリ氏はいいます。「様々な問題に直面することもありますし、厳しい状況下での活動でもあります。それでも、ADRAは日本からの支援を受けて、この地域の子どもたちに約束した『安全に教育を受けられる環境』を整えるために、このような状況でも活動しています。」

教育は子どもたちにとって希望そのものです。私たちはこの20年間でそのことを実感してきました。11月現在、未だアフガニスタンは国家として機能しているとは言えず、この先も何が起きるか分かりません。現状の中で今、ADRAとして何ができるのか、模索しながら歩んでまいります。



現事業の学校建設現場

世界のADRAから

約120か国と地域に支部を持つADRAは、世界各地で事業を実施しています。数ある事業の中から、活動の一部をご紹介します。



HAITI

大地震に見舞われたハイチでコミュニティとつながる支援を実施

2010年にマグニチュード7.0の大地震に襲われたハイチ。今年8月14日に再びマグニチュード7.2の大地震に見舞われました。震源地は首都ポルトープランスから西に約125kmの地点で、死者2,000人以上、負傷者12,000人以上、損壊または全壊になった建物は13万棟と大きな被害を受けました。

ADRAは発災直後から活動を開始し、家を失ってしまった方々や治療を受けることができていない方々に対して、支援物資の配付や医療者の派遣による支援を届けています。

ADRAの支援を受け取った方の一人、デュモンさんは地震発生時、庭仕事を終え、教会で待つ奥さんに合流するために家を出ようとしていました。激しい雨のような音が聞こえてきたかと思うと、目の

前の家が大きく揺れはじめました。「地震だ!」そう叫ぶと、子どもたちを集め家から離れ庭にふせました。大地は大きく揺れ、デュモンさんの家は一瞬で崩れてしまいました。揺れが収まると、「お母さん! お母さん!」と泣き叫ぶ子どもたちを落ち着かせて庭で待っているように伝え、奥さんを探しに急いで教会へ向かいました。ガレキの山に姿を変えた町の様子にショックを受けながら走っていると、教会の手前で奥さんに会うことができました。その後、デュモンさんは家族を連れ、助かった近所の人たちと安全な場所に移動しました。

「大地震の中、家族が無事であったことはうれしかったです。しかし、多くの知り合いが亡くなり、悲しみに押しつぶされようになっています。今後どのように生

活を立て直したらいいのかもわかりません。お金があればすべて子どもたちの教育に費やしてきたので、手元には何も残されていません。家を建て直す資金もなく、途方に暮れています。」(デュモンさん)

このような中、ADRAはデュモンさんのような最も弱い立場にある方々約15,000人を対象に、テント、飲料水、衛生用品、および食料の配付を行い、当面の生活を立て直すための支援を実施しました。支援活動に携わっているADRAハイチ支部のリサとビリーからは「ADRAは人々のニーズに応えています。一時的な支援だけでなくコミュニティともしっかりつながった活動はとても喜ばれています。」という報告が届いています。今後は倒壊した校舎の再建にも取り組んでいきます。



被災した家の前に立つデュモンさん



食料や生活物資など緊急支援物資を配付

認定NPO法人を更新

ADRAは今年、5年に一度の認定NPO法人の更新を申請し、所轄庁の審査を経て無事に更新することができました。今後も支援活動を誠実に実施して参ります。

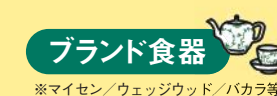
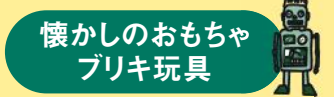
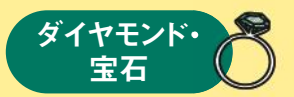
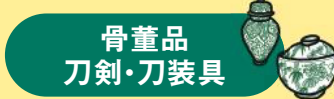
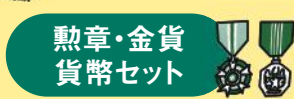
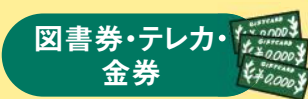
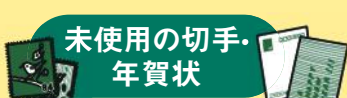
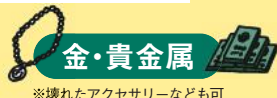
使わなくなったもので活動を支援する物品寄付

ご家庭や会社で不要となった物品を「お宝エイド」へ送付いただくことにより、ADRAの活動を支援することが可能です。使わなくなった以下のような物品がございましたら、ぜひご寄付ください。



受付品目

●衣類、着物、家電、家具、ぬいぐるみ、人形、パソコンなどはお取り扱いしていません。



●箱や袋などの付属品やギャランティーカード、鑑定書があれば一緒にお送りください。
●貴金属類は壊れていたり、そろっていなかったりしても大丈夫です。状態によらず1点からでもお送りください。

簡単2ステップ♪

ステップ1

ご家庭に眠っていて、寄付してもよい「お宝」を梱包し、箱や紙袋に詰めます。

※ADRA Japanはお宝エイド受付センターより、通常査定額に10%上乗せされた金額（一部金券などを除く）を活動資金として受け取ります。

ステップ2

郵便局かコンビニに持ち込み、右のように着払い伝票を書き、送ります。もしくは、日本郵政（ゆうパック）に集荷依頼の電話をして集荷してもらいます（以下参照）。着払い伝票は事前に郵便局かコンビニでお受け取り下さい。

0800-0800-111

年中無休 AM 8:00 ~ PM 9:00

日本郵政（ゆうパック）の集荷依頼はこちら

応援メッセージ

お宝エイドの事を知ったとき、便利で簡単だと思いました。その後、「面倒だから捨ててください」と知り合いの人に遺品処分を依頼された時、許可を得て私の物と一緒に送ったところ、アクセサリーや古銭、金歯、銀杯、時計などを計14,097円の寄付金にしてくださいました。また、通常の実買取価格より1割位上乗せした寄付金にして下さり感謝でした。

藤高 邦子さんより

着払い伝票の記入方法

「品名」の欄に必ず「ADRA Japan 宛『お宝エイド』」と記載

1560041	
東京都世田谷区大原2-23-17-1F	
お買取屋さん東京本店内	
お宝エイド受付センター・東京	品名 ADRA Japan 宛
03 (6265) 7595	「お宝エイド」

※宝石等の貴重品は書留、その他の高価なものはセキュリティサービス付きゆうパックでお送りください。
※お品物が到着した時点で、ADRA Japanへ寄付されたものとされ、その後のご返却は一切できません
※「お宝エイド」ではADRA Japanへ寄付される物品の受取代行をしています。
※査定額の報告は各支援先団体にお問い合わせください。

こんなもの送っていい？ や送り方の問い合わせは **TEL:156-0041**
お宝エイド 受付センター・東京 東京都世田谷区大原2-23-17-1F
お買取屋さん東京本店内
(東京都公安委員会 第303291208982号) **TEL:03-6265-7595**

郵便振替、クレジットカード、銀行振込等によるご寄付も常時受け付けております。〈郵便振替〉口座番号:00290-2-34169 加入者名:(特活)ADRA Japan

お問い合わせ先 いただいたご寄付は税制優遇の対象となります。

TEL: 03-5410-0045 E-mail: support_adra@adrajpn.org ホームページ: <https://www.adrajpn.org/>



ADRA Japanは「人間としての尊厳の回復と維持」を実現するため、キリスト教精神を基盤として、人種・宗教・政治の区別なく世界各地で国際協力活動を行っています。

ADRA News 130号 2021年12月1日発行

発行人 浦島 靖成
発行 特定非営利活動法人 ADRA Japan (アドラ・ジャパン)
〒150-0001 東京都渋谷区神宮前1-11-1
TEL: 03-5410-0045 FAX: 03-5474-2042
E-mail: support_adra@adrajpn.org
Facebook: adrajapan Twitter: ADRA_Japan
Instagram: adra_japan

団体概要

法人名 特定非営利活動法人 ADRA Japan
所在地 〒150-0001 東京都渋谷区神宮前1-11-1
(JR原宿駅 徒歩5分、東京メトロ明治神宮前(原宿)駅 徒歩2分)
代表者 柴田 俊生(理事長)
事務局責任者 浦島 靖成(常務理事/事務局長)
創設年月日 1985年3月30日

Justice,
Compassion,
Love



デザイン: 細山田デザイン事務所